



物質と科学技術

◎素材の利用

(毛、綿、絹など)と人工の繊維(ナイロン、アクリル、ポリエステルなど)がある。

おもに が原料



: 石油などから人工的につくられた物質。

(多くの原子がつながって分子になっているもの)である。



廃棄されたプラスチックが水中で細かくなり、魚や海鳥などの体内への蓄積が心配されているものを という。

例：ポリエチレン、PET、ポリプロピレンなど

高分子化合物のうち、電流を通す、大量の水を保持できる、水分によって発熱するなど特別な機能をもつものを という。

: 原油から分離した成分や、アクリル繊維を高温で処理し、繊維に加工したもの。軽く、引っ張りに強く、しなやかで、航空機の機体や釣りざお、テニスのラケットなどに使われる。

: 力をかけて変形させても、加熱や冷却によってもとの形に戻る合金のこと。

19世紀には、石灰石や粘土からつくられる が建設物の姿を一新させ、20世紀はじめには

が作物の収量を上げるのに役立った。また、微生物の増殖を妨げる は、微生物による多くの病気の治療に役立った。

は石けんなどに含まれ、油汚れをとることができる成分である。

() : 電池や携帯電話などに使われる、資源量が少ない元素。

な社会(くらしに必要なものやエネルギーを現在も将来の世代も安定して手に入れることができる社会)をめざし、世界で取り組みが進められている。